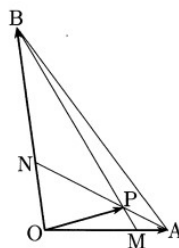


III

三角形 OAB を考える。辺 OA を 3 : 1 に内分する点 M, 辺 OB を 1 : 2 に内分する点 N とし、線分 AN と線分 BM の交点を P とする。



- (1) ベクトル  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OB}$  をそれぞれ  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  とおくと、ベクトル  $\overrightarrow{OP}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  で表すことを考える。

$$AP : PN = s : (1 - s) \quad (0 < s < 1)$$

$$BP : PM = t : (1 - t) \quad (0 < t < 1)$$

とおくと

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OP} &= \left( \frac{\text{A}}{\text{B}} - s \right) \vec{a} + \frac{\text{C}}{\text{D}} s \vec{b} \\ &= \frac{\text{E}}{\text{F}} t \vec{a} + \left( \frac{\text{G}}{\text{H}} - t \right) \vec{b} \end{aligned}$$

が成り立つから

$$s = \frac{\text{I}}{\text{J}}, \quad t = \frac{\text{K}}{\text{L}}$$

である。したがって、 $\overrightarrow{OP}$  は  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて

$$\overrightarrow{OP} = \frac{\text{M}}{\text{N}} \vec{a} + \frac{\text{O}}{\text{P}} \vec{b}$$

と表される。

(問は次ページに続く)

(2)  $OA = 6$ ,  $OB = 9$  のとき, 線分  $OP$  の長さ と  $\angle AOB$  の大きさとの関係を調べよう。

$OP$  の長さを  $l$  とおくと、 $l^2$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  の内積  $\vec{a} \cdot \vec{b}$  を用いて表すと

$$l^2 = \frac{\boxed{\text{O}}}{\boxed{\text{PQ}}} \vec{a} \cdot \vec{b} + \boxed{\text{RS}}$$

を得る。

したがって、例えば、 $l = 4$  のとき

$$\cos \angle AOB = \frac{\boxed{\text{TU}}}{\boxed{\text{V}}}$$

である。

一方、 $\angle AOB$  の大きさを変えると、 $l$  のとり得る値の範囲は

$$\boxed{\text{W}} < l < \boxed{\text{X}}$$

である。